

姉妹校締結 生保内中学校×北投国民中学

4月24日、生保内中学校が台湾の北投国民中学（台北市）と姉妹校提携を結びました。仙北市内の中学校が台湾の学校と姉妹校提携を結ぶのは、昨年12月の角館中学校と恵文高級中学（台中市）に続き2校目となります。

今回の姉妹校提携は、世界でも台湾の台北市にある北投温泉と仙北市の玉川温泉の2か所でした。産出されない北投石を緑とする温泉提携がきっかけとなったものです。

当日は、北投国民中学の生徒10人や教師、保護者などが生保内中学校を訪問。生保内中学校の佐々木正芳校長と北投国民中学の李素珍校長、



協定書を取り交わす生保内中学校の佐々木正芳校長（左）と北投国民中学の李素珍校長（右）。

門脇市長、両校の生徒たちが出席し、締結式が行われました。

締結式で生保内中学校の佐々木正芳校長は「締結を機に両校の交流が推進されることを確信している」とあいさつし、北投国民中学の李素珍校長は「北投石のご縁に感謝している。今後、両校の友好関係がより一層深まると信じている」と述べました。

締結式の後には生保内中学校生徒による歓迎式が行われたほか、おやき作りやバドミントンで体を動かすなど両校の生徒は交流を深めました。



おやき作りを通して交流を図る両校の生徒。

15匹が仲間入り！クニマスが追加貸与されました



秋田県農林水産部の齋藤部長（左）からクニマスを受け取る倉橋副市長（右）。



クニマスが元気に泳ぐ姿をぜひ見たいと思います。

このたび、山梨県から秋田県にクニマス30尾（1歳魚）の貸与を受け、このうち15尾を仙北市に貸与いただきました。

4月24日の15時に山梨県水産技術センター忍野支所を出発したクニマスは、25日9時頃に田沢湖クニマス未来館へ3尾ずつビニール袋に入れられ到着しました。

ビニール袋ごと展示室の水槽に入れ水温調整をした後、水槽に放たれると体長15センチほどの小さなクニマスたちは、元気に泳ぎだしました。秋田県農林水産部の齋藤了部長は「無事に着いて安心している。田沢

湖に帰る姿を思い描いてほしい」と、田沢湖クニマス未来館の大竹敦館長は「嬉しい反面新たな緊張感がある。多くの方に見てもらえるように、水温とえさに気をつけて元気な姿を見せられるように大切に育てたい」と話しました。

また、この日大館市から来館したご夫婦は「桜や水ばしろう、カタクリを見て今日帰るところだったのが、帰りにクニマスを見てみたいと立ち寄った。今日クニマスが来ることは知らなかった。クニマスを見るのは初めてで、1歳は思っていたよりも大きかった」と話していました。

4月28日、仙北地区暴力追放推進委員会、仙北市防犯協会、仙北市少年保護育成委員会、仙北市防犯指導隊などによる「暴力団排除・特殊詐欺被害防止活動」が角館の桜まつり会場で行われました。

当日は、各団体からあわせて約40人が参加。なまはげと一緒に、桜まつりに訪れた観光客に、暴力団排除や特殊詐欺被害防止の啓発グッズ、チラシを配りながら防犯意識の向上に努めました。

参加者は、観光客一人ひとりに丁寧に声かけをし、暴力団排除の「3ない運動プラス1」（暴力団を利用しない・恐れなく・金を出さない、暴力団と交際しない）や振り込め詐欺などに対する注意を呼びかけていました。

暴力団排除・特殊詐欺被害防止活動



なまはげと一緒に被害防止を呼びかけました。

しっかり守ろう交通ルール

交通安全教室



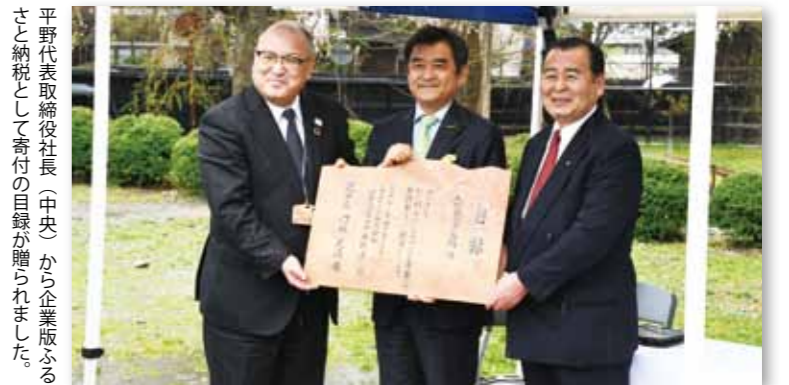
パトカーの中は子どもたちにとって興味津々。

4月26日、生保内小学校体育館を会場に交通安全教室が開催されました。

当日はあいにくの天気でしたが、1年生から3年生、4年生から6年生に分かれて交通安全について学びました。

児童代表のあいさつで千葉裕基くん（6年生）は「交通ルールを守って安全に過ごしましょう」と話しました。体育館に設営された訓練用の路上で、児童たちは正しい横断歩道の渡り方やDVDによる安全な自転車の乗り方、パトカー見学などゴールデンウィークを安全に楽しく過ごすために熱心に指導を受けていました。

仙北市 × アステリア(株) 共同記者会見で 新たな事業を発表



平野代表取締役社長（中央）から企業版ふるさと納税として寄付の目録が贈られました。

4月26日、仙北市と桜の保全活動に関する協定を結ぶソフトウェア開発企業のアステリア株式会社（東京都／平野洋一郎代表取締役社長）が角館樺細工伝承館前多目的広場で共同記者会見を行い、角館人力社のご協力によりアプリを活用して人力車の現在地を確認・配車する「人力車配車アプリ」を発表しました。

これは、角館の桜まつりにあわせた観光振興強化策で、人力車の現在地や空車状況をリアルタイムで把握することで、利用者のストレス軽減を図るものです。桜まつり期間中に試験的に運用し、実用化に向けた課題を抽出しました。

また、会見では企業版ふるさと納税対象事業の進捗状況の報告やIoTセンサーによる温泉地での火山性ガスの検知実証など今後の予定も発表されました。



タブレット端末を使用して人力車の現在地を把握します。

会見に出席したアステリア(株)の平野代表取締役社長は「企業と地方が手を組んで、ふるさとを創生していく新しい形を推進していきたいと思っています。これからも支援を続けていきたい」と話しました。仙北市はアステリア(株)から企業版ふるさと納税として、令和2年度まで毎年100万円の寄付をいただきますが、さまざまなお仕事を展開しています。

仙北市×DMO候補法人(一社)田沢湖・角館観光協会×JR東日本秋田支社

観光まちづくりに向けて連携協定



左から佐藤会長、門脇市長、菊地支社長、青柳市議会議長。

5月7日、仙北市、DMO候補法人(一社)田沢湖・角館観光協会、東日本旅客鉄道(株)秋田支社は、仙北市の観光需要のさらなる創出を推進するため「観光まちづくり」に関する連携協定を締結しました。

この協定は、三者が相互に連携・協力しながら、それぞれが有する観光資源を有効活用し、観光需要の創出と観光交流の促進を目的としています。

農業に近未来技術を ロボットトラクターの自動耕起デモンストレーションを実施しました



スマート農業は、農業分野の課題解決に向けて注目されています。

仙北市では、農業分野における様々な課題を解決する手法の一つとして、近未来技術を活用した「スマート農業」を推進しています。

作業元成予測時間の確認が行われ、ロボットトラクターは、障害物センサーにより第三者などへの衝突を回避し、通信距離が既定値を超えると停止する機能を備えています。

角館高校野球部 監督 湯澤淳 新入部員22人を迎え、総勢64人で今シーズンのスタートとなりました。

角館高校野球部 地域サポーター事務局から

サポーター各位のご支援により「スピードガン」を平成30年度事業として寄贈いただきました。



寄贈されたスピードガン。

角館高校野球部 主将 高橋 佑 私たちは昨年の秋の県南大会で負け、一球の怖さや集中力のなさを感じ、その後の練習では一球の質にこだわってきました。



今年入部した1年生部員。

いわぎん「みらい応援私募債」(寄付型CSR私募債)寄贈式

仙北市民会館へ和太鼓を寄贈



(株)シリウスの佐藤代表取締役(右)と岩手銀行本店営業部の久慈副部長(左)から、佐々木教育次長(中央)へ目録が手渡されました。

このたび、建築工事業者の株式会社シリウス(本社/岩手県盛岡市)と岩手銀行より、仙北市民会館へ和太鼓1張とチャップバ2個を寄贈いただきました。

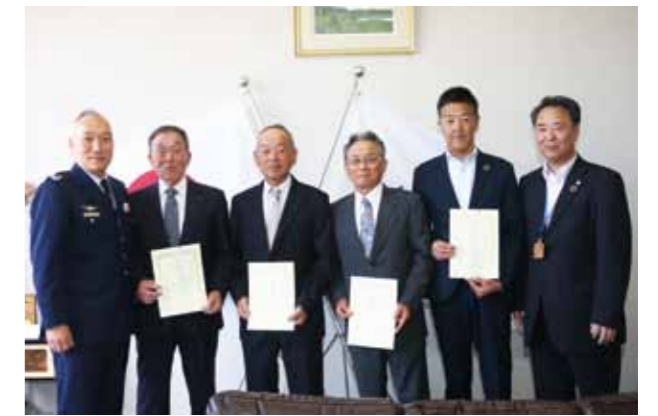
これは、岩手銀行が『いわぎん「みらい応援私募債」』を発行する際の手数料の一部を私募債発行企業が指定した学校などに、教育に関する物品を寄贈するものです。

5月15日には、市役所田沢湖庁舎で寄贈式が行われ、同社の佐藤幸夫代表取締役と岩手銀行本店営業部の久慈英樹副部長から、佐々木幸美教育次長へ目録が手渡されました。

自衛隊募集相談員が委嘱されました

このたび、4人の方が、自衛隊秋田地方協力本部長並びに仙北市長より自衛隊募集相談員に委嘱されました。

自衛隊募集相談員には、自衛官志願者に関する情報の提供、自衛隊秋田地方協力本部が行う募集の広報などにご協力いただいています。



左2人目から相談員に委嘱された伊藤邦彦さん（西木）、千葉栄幸さん（田沢湖）、黒澤幸徳さん（角館）、大澤裕司さん（田沢湖）

各地の特産品が大人気

姉妹都市・交流都市の物産展を開催

角館の桜まつり期間中の4月27日、28日、仙北市の姉妹都市・連携交流都市（長崎県大村市、茨城県常陸太田市、秋田市）の物産展が市役所角館庁舎前の特設アントで開催されました。

大村市名物のちゃんぽん、皿うどん、カステラや常陸太田市名物の地酒や菓子類、秋田市からは鮎甘露煮など、本来、地元でしか手に入らない品々が並び、大盛況となりました。



お目あての商品を求めらるお客さんで賑わいました。

市長のまちづくり No.151 日記

『どん底に起死回生の起点がある』

仙北市長 門脇 光浩

牛丼チェーンの榊吉野家ホールディングスで、アルバイトから正社員、社長、そして現在は会長となった安部修仁さんから、元氣の出るお話をいただきました。皆さんにもご紹介します。

吉野家は一度倒産しています。またBSE問題で牛肉の輸入が禁止になった時は、2年ほど牛丼の販売を中止しました。会社の危機でした。でも、どん底に起死回生の起点があったんです。それは企業にも、社員の人生にもいえることです。世の中、成功の原則よりも失敗の原則の方が普遍的ですよ。これも後になって気づくことばかりですが…。

吉野家の初代社長は松田瑞穂で、私たちはオヤジと呼んでいます。「勝つまでやるんだから必ず勝つ」的な、仕事一筋のオヤジでした。築地市場に1号店をオープンした後、オヤジは社員が会社の財産と、毎年倍々の新社員を採用しました。その社員が働ける数の店舗を翌年開店しました。いま思えば粗製濫造です。数とスピードを優先した結果、牛丼の品質が落ちて、お客さまの信頼を失い、倒産が目の前に迫りました。社員は見る間に辞めていきました。

私もいつ辞めるか、それともオヤジと一緒に会社の最後を見届けるか、頭の芯がシビれるくらい考えました。ただ、私は自分で人生を面白くしたい方です。倒産の後片付けなんて仕事はそうそう経験できないと考えて、留まることにしました。会社更生の作業を進め、品質向上と赤字店の閉店と店長の再教育で、7年で吉野家は再生できました。株式会社も公開し値がつかまりました。あの時、会社に残った社員は、みんな億万長者です。アメリカから牛肉輸入が禁止されたときは、牛肉の産地を変えたらいいじゃないかと。でも、産地が変わると肉の味が変わります。それに合う汁の調味料も変えると、吉野家の牛丼の味がまるで変わってしまうんです。それで吉野家ではなくなるということです。私たちは牛丼の販売中止を決断しました。お叱りもいただきましたが、それ以上に吉野家の味を支持する多くの応援がありました。アメリカビーフの輸入再開を待つこと…。吉野家はお客さまを信じていることができたので、現在があると思っています。

※秋田内外情勢調査会場での話から。

生涯学習を身近に

生涯学習奨励員に委嘱状が交付されました

生涯学習奨励員は、地域住民の身近なところで学習活動を奨励・援助し、生涯学習を活発にするために委嘱しています。

奨励員の皆さんは、各々得意分野で公民館活動やサークル活動を通じ活躍しています。

「こんなことをしてみたい」「体験してみたい」などご要望がありましたら、生涯学習課（☎43-3383）へご相談ください。

生涯学習奨励員は次の方々です。
（敬称略 新⇨新任、再⇨再任）

【生涯学習奨励員】

会長	赤川和子	（角館）	再
副会長	千田ミワ	（田沢湖）	再
副会長	新山正雄	（西木）	再
委員	小松龍子	（田沢湖）	新
委員	高橋幸雄	（田沢湖）	再
委員	千葉薫	（田沢湖）	再
委員	黒澤美鈴	（角館）	再
委員	館花久子	（角館）	再
委員	雲雀秀人	（角館）	再
委員	阿部栄子	（西木）	再
委員	伊藤キヨ子	（西木）	再
委員	門脇トキヨ	（西木）	再
委員	村上新子	（西木）	再

任期は平成31年4月1日から令和3年3月31日までとなっています。



2年間生涯学習奨励員として頑張ります。



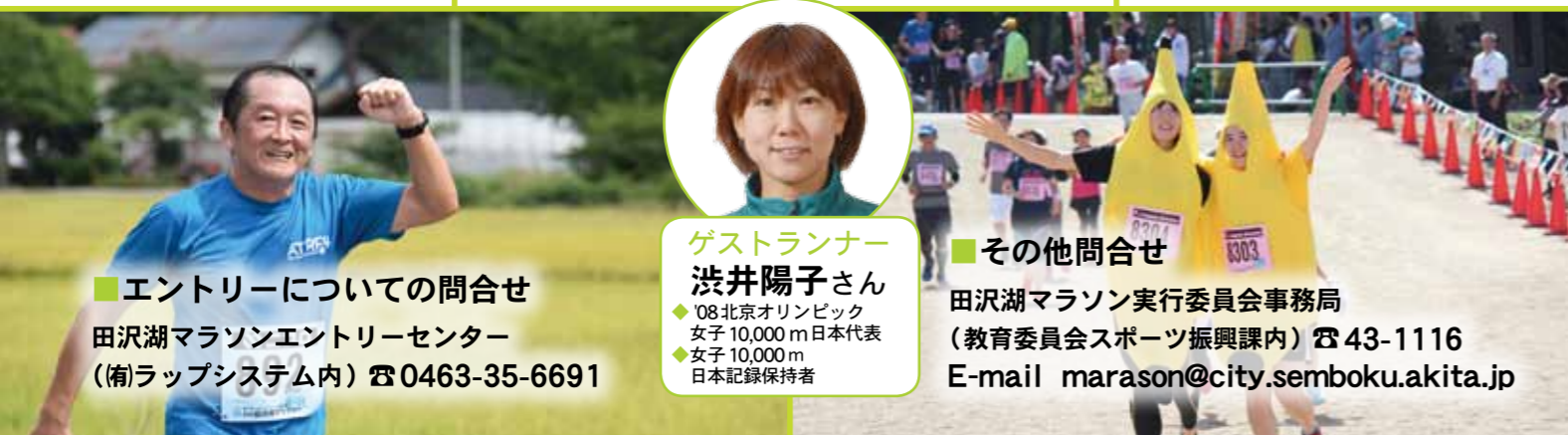
今年の田沢湖マラソンは、9月15日(日)に開催されます。市民の皆さんも健康づくりや自身へのチャレンジとして、ぜひご参加ください。当日はコース周辺で交通規制が行われますので、ご協力をお願いします。詳しくは、仙北市ホームページのイベント情報をご覧ください。

9月15日[日]

エントリー受付中!
TAZAWAKO MARATHON

新時代も完走体感! 日本一深い田沢湖で!
第34回田沢湖マラソン

エントリーの締切は
7月26日(金)



■エントリーについての問合せ

田沢湖マラソンエントリーセンター
（南ラップシステム内）☎0463-35-6691

■ゲストランナー

渋井陽子さん
◆08北京オリンピック
女子10,000m日本代表
◆女子10,000m
日本記録保持者

■その他問合せ

田沢湖マラソン実行委員会事務局
（教育委員会スポーツ振興課内）☎43-1116
E-mail marason@city.semboku.akita.jp